

# 「いのち」の教育実践事例

## ☆人との関わりから考える「いのち」の教育の実践 (米沢市立第一中学校)

人との関わりを学ぶ  
多様な立場の人の  
視点に立った教育

### — あらゆる視点から人との関わりを考え、いのちの大切さに気付く —

新型コロナウイルスによる差別・偏見や多様化する性の知識、人との関わる体験活動を通して、さまざまな視点からの考えを深めていく実践を紹介します。

#### 〇シトラスリボンプロジェクトの推進

・コロナ禍で生まれた差別や偏見をなくそうと愛媛県の有志がつくったプロジェクトに賛同し、シトラスリボンを全校生で着用しています。学校や地域でも感染者への差別や偏見を一切なくすことで、治療に専念でき、安心して復帰できるようになります。また、感染が確認された“その後”に思いやりをもった対応ができる学校にしていきたいと全校生へ呼びかけています。



委員会活動でひとつひとつ丁寧に作成しています。



#### 〇地域行事への参画

・地域のコミュニティセンターと連携して、「東部地区文化祭」にボランティアとして参加しました。催し物を企画したり、吹奏楽部が演奏を行ったりしています。活動を通して、地域に貢献することの大切さや年代の離れている方々との関わり方を学ぶことができました。

盛り上がる内容を考え、手作りで準備しました。どの企画も大好評でした。



#### 〇スクールカウンセラーによる人との関わりを考える講話

・各学年の実態に合わせた人との接し方や、適切な距離の取り方をカウンセラーという立場から説明していただきました。何気ない言葉や行動ひとつで、相手を傷つけることもあれば救うこともできます。今の人間関係をもう一度見直すきっかけにもなりました。



1年生では「パーソナルスペース」、2年生は「リーダーとフォロワー」、3年生は「受験生の悩み」のテーマで話していただきました。

#### 〇現代社会に沿った包括的性教育の実践

・ジェンダーの多様性や人権、性暴力防止などを含む性教育を発達段階に合わせながら行いました。生徒は「多様な性」があることを知り、考え方の違いを理解しようとする姿が見られました。「異性との関わり」では、性暴力の被害者にならないことだけでなく、無意識のうちに性暴力の加害者にならないように、さまざまな事例から考えを広げる様子が見られました。

学年ごとに指導案を共有し、担任が授業を行いました。

